

一般社団法人

富山県臨床検査技師会会報

平成 30 年 10 月 30 日 発行 通巻 329 号

2018 11 月号

目次	論文募集のお知らせ・・・・・・・・・・	1 P
	生涯教育研修会日程・・・・・・・・・・	2 P
	今月・来月の行事予定表・・・・・・・・	5 P
	トピックス・・・・・・・・・・	6 P
	シリーズ輸血・・・・・・・・・・	8 P
	珈琲ぶれいく・・・・・・・・・・	11 P
	第 27 回呉西地区ボーリング大会報告	12 P
	事務局からのお知らせ・・・・・・・・	13 P



TAMT 一般社団法人 富山県臨床検査技師会

Toyama Association of Medical Technologists

富臨技 E メールアドレス tamt@jasmine.ocn.ne.jp
 富臨技 ホームページURL [http:// www.tamt2012.or.jp/](http://www.tamt2012.or.jp/)
 ホームページもご覧ください。

発行所 一般社団法人 富山県臨床検査技師会	編集者 澤井真史 上野智浩 村椿智佳子
発行地 〒939-8222 富山市蜷川 336	柴山直美 油谷智史 石川幸和
富山県医師会館内	中河竜也 谷口直美 宮窪麻由美
TEL 076-429-4309	今村縁 清水雅彦 高柳由美
FAX 076-429-4569	中野壮城 齊藤良子 長沢昌恵
発行人 会長 南部 重一	宮崎しのぶ 丹羽弘枝 小路聡美
印刷人 一般社団法人 富臨技事務局・広報部	岡田佐恵子 林智津代 藤本寛之
編集責任者 広報部長 野村 亮	大橋美香 竹村さおり 宮脇夕佳
	細谷孝子

論文募集のお知らせ

富山県臨床検査技師会では、例年どおり平成 30 年 3 月に富山県臨床検査技師会誌を発行する予定で、準備を進めています。つきましては、本会誌に掲載する論文（未発表のもの）を募集致します。

投稿にあたっては、富臨技ホームページ『ダウンロード』にある論文作成投稿要領に従い作成し、メールで富山県臨床検査技師会 tamt@jasmine.ocn.ne.jp まで送付下さい。

なお募集期間は平成 30 年 11 月 1 日（水）～12 月 31 日（日）ですので、よろしくお願い致します。

平成 30 年度富山県医学検査学会開催のご案内

及び演題募集のお知らせ

日 時（仮）：平成 31 年 3 月 9 日（土）13：00～

場 所：富山県医師会館 4階 会議室

演 題 募 集：平成 30 年 11 月 1 日（水）～12 月 31 日（日）

日臨技HP会員専用サイトから登録お願いします

※問合せ先：富山県臨床検査技師会 学術部長

厚生連高岡病院 0766-21-3930（内線 3406）

中河 竜也まで

生涯教育研修会日程

参加される方は、日臨技会員証を必ずご持参ください。

非会員の方は、原則として 1 研修につき参加費 1,000 円を徴収します。

富臨技主催・共催

❖ 第 36 回日本・輸血細胞治療学会北陸支部例会

日 時：平成 30 年 11 月 10 日（土） 13：00～18：00

会 場：厚生連高岡病院

❖ 平成 30 年度 生理検査部門精度管理報告会

日 時：平成 30 年 11 月 10 日（土） 13：30～15：30

会 場：射水市民病院 3 階 会議室

❖ 平成 30 年度 臨床微生物部門精度管理調査報告会

日 時：平成 30 年 11 月 17 日（土） 14：00～15：30

会 場：富山大学附属病院 大会議場

❖ 平成 30 年度 臨床一般部門精度管理調査報告会

日 時：平成 30 年 11 月 17 日（土） 14：30～17：00

会 場：市立砺波総合病院 第一会議室

❖ 平成 30 年度 生化学・免疫血清検査部門精度管理報告会

生物化学分析部門研修会

日 時：平成 30 年度 11 月 18 日（日） 14：00～16：00

会 場：富山大学附属病院 総合臨床教育センター 2 階多目的研修会

❖ 平成 30 年度全国「検査と健康展」in TOYAMA

日 時：平成 30 年 12 月 1 日（土） 10：00～16：00

会 場：イオンモール高岡 セントラルコート・イオンホール

内 容：健康チェック（血管年齢、肺年齢、骨密度など）

ポスター展示、臨床検査専門医による健康相談、臨床検査認知度調査
体験コーナー、リーフレット・パンフレット配布

❖ 平成 30 年度富山県精度管理調査報告会

日 時：平成 30 年 12 月 2 日（日） 9：00～12：50

会 場：富山県医師会 1 階大ホール

富臨技主催・共催

❖ 第 9 回 金沢大学臨床検査セミナー

日 時：平成 30 年 12 月 8 日（土） 14：00～17：00

会 場：金沢大学附属病院 宝ホール

対 象：検査技師・医師等医療従事者・学生・その他

受講料：無料

❖ 平成 30 年度認知症対応力向上講習会 B

日 時：平成 31 年 1 月 26 日 8：45～18：00

会 場：富山県済生会富山病院 2 階研修ホール

「認知症対応力向上講習会 B」の開催案内と参加登録方法は
富臨技 HP にも掲載してあります。

日臨技 or 中部圏支部主催

❖ 平成 30 年度中部圏支部 病理細胞検査研修会

「上部尿路上皮細胞を極める」

「p63 抗体免疫染色サーベイ」

日 時：平成 30 年 12 月 22 日（土）12：50～12 月 23 日（日）11：45

会 場：サンシップとやま 福祉ホール

受講費：9,000 円（日臨技会員） 12,000 円（非会員）

定 員：100 名

情報交換会費：5,000 円（希望者のみ）

申し込み期間 平成 30 年 9 月 1 日～10 月 27 日

申し込みは日臨技 HP の会員専用ページから事前登録を行ってください。

❖ 検体採取に関する厚生労働省指定講習会 重要

平成 27 年 4 月以降、検体採取等業務が臨床検査技師の業務範囲に含まれることとなりました。厚生労働省指定講習会を終了しないと新たな検体採取等の業務には従事できなくなります。有資格者全員の受講が求められます。

皆様早めに受講しましょう。

<http://www.jamt.or.jp>

H30. 9/27 現在の受講状況

会員数 (富山県) : 573 名

修了者 (富山県) : 327 名

未受講者 (富山県) : 246 名

修了率 : 富山県 57.1%

全 国 67.0%



◇実施可能となる業務

～検査のプロが責任を持って採取しています～

- ①鼻腔拭い液、鼻腔吸引液、咽頭拭い液その他これらに類するものを採取する行為
 - ②表皮並びに体表及び口腔の粘膜を採取する行為（生検のためにこれらを採取する行為を除く。）
 - ③皮膚並びに体表及び口腔の病変部位の膿を採取する行為
 - ④鱗屑、痂皮その他の体表の付着物を採取する行為
 - ⑤綿棒を用いて肛門からの糞便を採取する行為
 - ⑥基準嗅覚検査及び静脈性嗅覚検査（静脈に注射する行為を除く）
 - ⑦電気味覚検査及びろ紙ディスク法による味覚定量検査
- ※⑥⑦は省令で定められた生理学的検査への追加



富臨技（主催・共催） 行事予定表

11 月			12 月		
日	曜	開催予定行事	日	曜	開催予定行事
1	木		1	土	平成 30 年度全国「検査と健康展」 in TOYAMA
2	金		2	日	平成 30 年度富山県精度管理調査報告会
3	土	いきいきとやま・第 31 回健康と長寿の祭典	3	月	
4	日	いきいきとやま・第 31 回健康と長寿の祭典	4	火	
5	月	いきいきとやま・第 31 回健康と長寿の祭典	5	水	
6	火		6	木	
7	水		7	金	
8	木		8	土	第 9 回金沢大学臨床検査セミナー
9	金		9	日	
10	土	生理検査部門精度管理調査報告会	10	月	
11	日		11	火	
12	月		12	水	
13	火		13	木	第 8 回理事会
14	水		14	金	
15	木	第 7 回理事会	15	土	
16	金		16	日	
17	土	臨床微生物部門精度管理調査報告会 臨床一般部門精度管理調査報告会	17	月	
18	日	生化学・免疫血清検査部門精度管理報告会	18	火	
19	月		19	水	
20	火		20	木	
21	水		21	金	
22	木		22	土	平成 30 年度中部圏支部病理細胞検査研修会
23	金		23	日	平成 30 年度中部圏支部病理細胞検査研修会
24	土		24	月	
25	日		25	火	
26	月		26	水	
27	火		27	木	
28	水		28	金	
29	木		29	土	
30	金		30	日	
			31	月	

トピックス



生理検査研究部門研修会に参加して 『 腹部超音波セミナー ～もっと肝臓を知ろう～

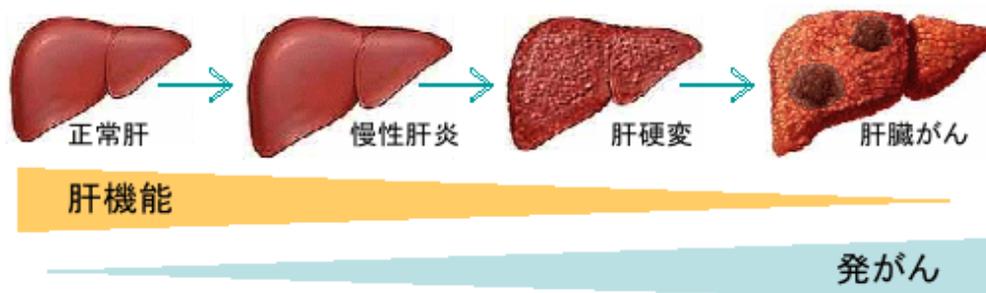
講義&実技 』

市立砺波総合病院 臨床検査科 村岡 悠紀

2018 年 9 月 15 日に富山市民病院で腹部エコー初心者向けに開催された生理検査研究部門の研修会に参加しました。

講義では上腹部全般の基礎的な内容に加え、最近注目されている Shear Wave Elastography(肝硬度測定)について簡潔に教えていただきました。肝炎ウイルスやアルコールなどによる肝線維化の程度を、エコーを用いて非侵襲的に評価できる有用な検査であると感じました。

講義後は肝臓、胆嚢、膵臓、腎臓の 4 つの臓器について 6～7 人のグループにわかれて実技実習を行いました。はじめに先生方から画像描出時のコツや注意点について簡単な説明を受けた後、実際に受講者が超音波プローブを持って画像を描出しました。初心者にとって取り組みやすい実技実習となりました。またルーチン検査での疑問点についても先生方に質問することができたのでとても有意義な時間になったと感じています。今回の研修会で学んだことを日々の業務に活かしていきたいと思います。



生理検査研究部門研修会報告

富山市民病院 此川静香

9月15日(土)に腹部超音波実技セミナーを開催しました。今回のテーマは「もっと肝臓を知ろう」ということで、肝疾患(特にびまん性肝疾患)にちなんだ講義とベテランソノグラファーによるハンズオンを企画しました。ハンズオンは予想を上回る参加があり、講義や休憩時間を削り対応しましたが、昨年以上に時間的余裕がなく、物足りなかった受講者もおられたと思います(この場を借りてお詫びします)。また要望がありましたら、エコー関連の企画を用意するかも・・・ですので何卒どうぞよろしくお願い致します。



シリーズ “輸血”

テーマ：「輸血医療チーム医療について」

2018/7/12 富山県輸血懇話会業務連絡会

第 190 回



担当 富山大学附属病院 道野淳子

<p>平成30年7月12日（木） 平成30年度富山県輸血懇話会業務連絡会</p> <h2>輸血チーム医療について 院内輸血監査に関する 当院での取り組み</h2> <p>富山大学附属病院 検査・輸血細胞治療部 道野 淳子</p>	<p>平成30年度富山県輸血懇話会業務連絡会 院内輸血監査に関する当院での取り組み の発表に関し 開示すべきCOIはありません</p>
<h3>輸血チーム医療に関する指針の提案</h3> <p>輸血医療チームと院内巡視（監査）</p> <ul style="list-style-type: none"> 輸血医療チームは輸血医療に専門性を持つ医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師などで構成される 輸血医療チームは周辺地域の輸血医療の発展にも寄与する 輸血関連有害事象発生時には、輸血医療チームが輸血医療の現場スタッフと共に、事実関係を明らかにし、再発防止に努める 輸血医療チームは、院内巡視（監査）を年1回以上行い、安全で適正な輸血医療を指導・教育する 輸血療法委員会と共同で必要に応じて、院内研修会・勉強会を企画・実施する <p>日本輸血・細胞治療学会</p> <p>2018/7/12 平成30年度富山県輸血懇話会業務連絡会</p> 	<h3>輸血機能評価認定制度（I&A制度）</h3>  <p>I. 輸血管理体制と輸血部門 A. 輸血療法委員会</p> <p>認定事項 I -A-1 輸血療法委員会(または同様の機能を有する委員会)を設置し、年6回以上開催している</p> <p>認定事項 I -A-2 血液製剤の適正使用を推進している</p> <p>重要事項 I -A-3 議事結果を病院管理会議に報告している</p> <p>重要事項 I -A-4 年2回以上の監査(輸血部門を含む)を行っている(医療安全委員会との合同でも可)</p> <p>重要事項 I -A-5 監査結果は輸血療法委員会に報告している</p> <p>重要事項 I -A-6 輸血療法委員会の決定事項は病院内に周知している</p> <p>日本輸血・細胞治療学会</p> <p>2018/7/12 平成30年度富山県輸血懇話会業務連絡会</p> 

当院の概要

病院概要

病床数 612床 診療部門:30部門
救急医療:二次救急および県内の高次救急医療 特定機能病院

検査・輸血細胞治療部 輸血細胞治療部門

副部長 1名(輸血認定医)
臨床検査技師 6名(認定輸血検査技師 3名)
看護師 1名(自己血輸血看護師、臨床輸血看護師)
事務員 1名

輸血用血液年間使用量(平成29年実績)

赤血球(全血を含む) 5,857単位
血小板 10,710単位
新鮮凍結血漿 3,270単位(120ml換算)

平成15年 I&A (現 輸血機能評価認定制度(I&A制度)) 取得

2018/7/12 平成30年度富山県輸血懇話会業務連絡会



当院の輸血チーム医療の取り組み

- 検査・輸血細胞治療委員会
- 富山県合同輸血療法委員会への参加
- 輸血後血液製剤のバッグ回収
- 輸血手帳の配布
- 輸血実施患者の適正使用の監視と指導
- 手術部ミーティング、および腎移植カンファレンスへの参加
- 院内監査

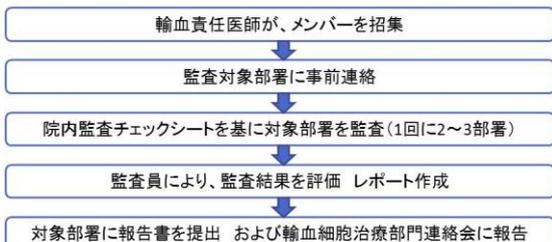
2018/7/12 平成30年度富山県輸血懇話会業務連絡会



院内監査の流れ

監査員の構成メンバー 6名

- 認定医 2名(輸血責任医師1名、診療科医師1名)
- 学会認定輸血看護師 1名
- 認定輸血検査技師 2名
- 医療安全担当看護師 1名



院内監査の詳細

【対象部署の決定】

- インシデント、輸血使用報告、廃棄、バッグ回収などで、問題のある部署を優先

【院内監査チェックシート】

- 基本的には、輸血療法マニュアルの「輸血療法の流れ」に沿って適正な輸血が行われているかどうかを確認する。
- 輸血療法マニュアルは、「輸血療法の実施に関する指針」「血液製剤の使用指針」を基に作成されており、チェックシートは、輸血療法マニュアルを反映した29項目について、A:できている B:一部出来ている C:改善が望まれる で評価を行う。

【院内監査報告】

- 監査を行った部署の輸血療法に関する状況を記載するとともに、監査総評は、全体の評価および改善すべき点、改善が望ましい点を挙げ、必要に応じて指導を行う。

2018/7/12 平成30年度富山県輸血懇話会業務連絡会



輸血療法における院内監査チェックシート

実施日	実施者	実施内容	評価 (ABC)	備考
対象者	病棟名	実施者		
輸血 申し込み	1. 輸血申請書はあるか			
	2. 輸血申請書を行い、輸血必要性の根拠が記録されているか			
	3. 事前に血液検査結果が提出されているか			
	4. 必要血液成分の単位と、血液製剤の検査が行われているか			
	5. オータ方法(予約など)、採血量及び採血時期は適切か			
	6. 輸血指針を確認し、採血開始に必要なチェックしているか			
	7. 検査・輸血細胞治療部からコンピューター報告を出力した製剤について、血液製剤名・単位数・ロット番号・有効期限・開封済み確認および製剤管理票と血液成分の適合性・血液型・製剤のロット等を確認し受検票に自印とサインがされているか			
	8. 製剤別に専用バッグで包装されているか			
	9. 血液製剤を袋中で保管していないか			
	10. 血液製剤出し入れ時、速やかに輸血が行われているか			
輸血中の 輸血細胞製剤の取り扱い	11. 輸血準備を完了したら適切に行っているか			
	12. 室温内の室温(℃)・冷蔵庫内温度(℃)・冷蔵庫内温度(℃)			
	13. 血液製剤の外観確認がされているか			
	14. 血液製剤、製剤管理票、血液成分適合性の血液製剤名・単位数・ロット番号・有効期限・開封済み確認を二人で読み合わせ確認しているか			
輸血準備 - 実施	15. 製剤管理票が血液製剤に添付されているか			
	16. ベッドサイドに血液成分の適合性があるか			
	17. 輸血実施詳細欄を記載させ、輸血開始時「バイタル」観察項目を必要事項を入力しているか			
	18. 輸血実施直前に、可能であれば患者に氏名を告げてもらい「テストサイン」・製剤管理票の適合性確認を依頼し、輸血開始を記載させ、照合確認を行っているか			
輸血準備 - 実施	19. 確認後、製剤管理票の照合確認欄「実施確認欄」にサインされているか			
	20. 輸血は単位ごとで行われているか			
	21. 輸血開始15分後に患者状態を観察しているか			
	22. 15分経過後は、開始から15分間は、1ml/分(15~20滴/分)が守られているか			
	23. 輸血開始後15分後に患者状態を観察し記録しているか			
	24. 15分経過後は、開始から15分間は、1ml/分(15~20滴/分)が守られているか			
輸血準備 - 実施	25. 輸血終了時、患者氏名、血液型、血液製剤ロット番号を再度確認しているか			
	26. 輸血終了後、患者氏名が記入されているか			
	27. 輸血効果を確認し、記録されているか			
	28. 輸血効果を確認し、記録されているか			
輸血後	29. 血液成分適合性の輸血製剤用チェック欄に動作あり、なしのチェックを記載したか			
	30. 血液成分適合性は、患者から検査・検査結果が確認されているか			

院内監査の実際

平成26年6月~平成28年2月までの1年9か月の間に、輸血を行っている診療科を対象に、26回のラウンドを行った。

◇ ラウンドを行った部署

病棟(ICU、ECU、CCU、NICU、MFICU、小児科、内科、整形外科、外科、産婦人科、耳鼻咽喉科)

血管造影室、光学医療診療部、手術部

内科外来、産婦人科外来

2018/7/12 平成30年度富山県輸血懇話会業務連絡会



<h2>院内監査 結果</h2>
<p>周知されている</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に同意書をとる。 ・ 2名での照合確認およびサインを行う。 ・ 輸血は1患者1トレイで準備する。 ・ ベッドサイドでの、輸血認証の実施。 ・ 電子カルテ 輸血詳細情報の記録はその都度記入する。 ・ 輸血開始後の患者の観察(5分間は患者のそばを離れない など)
<p>おおむね 周知されている</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 輸血の根拠および輸血効果について、電子カルテに記載する。 ・ 交差用検体は、血液型とは別ルートで採血する。 ・ 血液在庫伝票の副作用報告の記載。 ・ 使用済みバッグは、輸血細胞治療部門に返却する。
<p>2018/7/12 平成30年度富山県輸血懇話会業務連絡会</p> 

<h2>院内監査 結果</h2>
<p>指摘事項</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ やむを得ず保管する場合の輸血製剤の保管場所および温度管理を行っていない、またはあいまいであった。 一時保管する可能性がある場合は、庫内に温度計を置くなどして、温度管理(冷蔵庫は2~6℃、冷凍庫は-20℃以下)を行うよう周知した。 ・ FFPを融解する際の温度、および正しい融解方法があいまいであった。 低温によるクリオの析出や高温によるタンパク変性に気を付け、容器に張ったお湯は、37℃に調整し、融解するよう周知した。 ・ 輸血時の血液の落下速度を把握していない。 開始直後の15分(1ml/分 15~20滴/分) およびその後の輸血速度(5ml/分 75~100滴/分)について、把握しておくことを周知した。 ・ 輸血終了時の再確認(患者氏名、血液型、ロット番号)を行っていない。 輸血終了時、患者へねぎらいの言葉や副作用有無の確認とともに、血液製剤の患者氏名やロット番号の再確認を行うことを周知した。
<p>2018/7/12 平成30年度富山県輸血懇話会業務連絡会</p> 

<h2>院内監査 結果</h2>
<p>指摘事項</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 製剤の外観確認 特に血小板のスワーリングの確認を知らない。 製剤の外観確認は、破損だけでなく、色調や血小板のスワーリングを確認する必要があり、その方法について周知した。 ・ 使用済みバッグが、蓋の無い箱に、無造作に置かれていた。 蓋のついた容器に入れ清潔区域以外の場所に保管するよう、周知した。 ・ 血液製剤抽出後、速やかに輸血を実施していない。 あくまでも輸血実施が決まってから取りに来ると同時に、何らかの事情で輸血時間が伸びた場合は、いったん輸血部門の保冷庫で保管するなど、血液製剤が長時間も放置されることの無いよう周知した。
<p>2018/7/12 平成30年度富山県輸血懇話会業務連絡会</p> 

<h2>院内監査結果</h2>
<p>院内監査が契機となり対策が講じられたこと</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 血液製剤管理票の両面テープがはがれやすい。 幅の広い両面テープを使用することで、はがれにくくした。 ・ カリウム吸着フィルターの正しい使用法を、把握していない。 メーカーによるカリウム吸着フィルターの正しい使用法について、勉強会を開いた。 ・ NICUでは、シリンジポンプを用いた輸血を行っている。 NICUでの輸血の運用について、医師と話し合い、血液製剤の無菌的分割の運用および製剤ごとのバッグ穿刺後の有効期限等、取り決めを行った。
<p>2018/7/12 平成30年度富山県輸血懇話会業務連絡会</p> 

<h2>まとめ</h2>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本輸血・細胞治療学会を中心に、院内監査の重要性が広まったことより、当院においても監査チームを結成し、院内監査を行った。 ・ 輸血前の確認として、2名による照合確認や輸血認証は、おおむね理解されていたが、輸血後の確認はほとんどの診療科で行われていなかった。 ・ また、製剤の取り扱いでは、温度管理やFFPの融解について、認識が薄く、場合によっては、不適切な輸血につながる可能性もあり、院内監査を行うことで、周知につながった。 ・ こうした取り組みにより、現場での輸血の実態が把握できるようになり、見落としていた点、あらためて気づいた点などもあり、より適切な輸血療法に対する成果が得られた。
<p>2018/7/12 平成30年度富山県輸血懇話会業務連絡会</p> 

<h2>まとめ</h2>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本輸血・細胞治療学会を中心に、院内監査の重要性が広まったことより、当院においても監査チームを結成し、院内監査を行った。 ・ 輸血前の確認として、2名による照合確認や輸血認証は、おおむね理解されていたが、輸血後の確認はほとんどの診療科で行われていなかった。 ・ また、製剤の取り扱いでは、温度管理やFFPの融解について、認識が薄く、場合によっては、不適切な輸血につながる可能性もあり、院内監査を行うことで、周知につながった。 ・ こうした取り組みにより、現場での輸血の実態が把握できるようになり、見落としていた点、あらためて気づいた点などもあり、より適切な輸血療法に対する成果が得られた。
<p>2018/7/12 平成30年度富山県輸血懇話会業務連絡会</p> 

珈琲ぶれいく



～ベル・モンターニュ・エ・メール(べるもんた)紀行～



先日、友人たち数名と地元散策に出かけました。その際に利用したのは、土日のみ運行している観光列車のベル・モンターニュ・エ・メール 通称「べるもんた」です。

この個性的な愛称は、高岡を起点に山側、海側の双方に路線が伸びる城端線、氷見線の特徴である「美しい山と海」をフランス語で表現したものです。

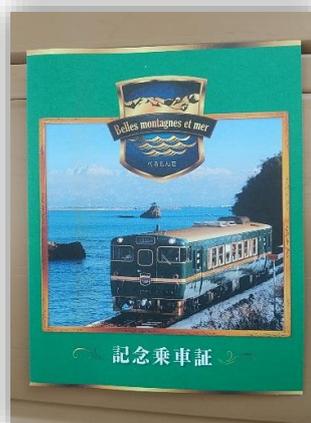
車内には、沿線の伝統工芸品「井波彫刻」や、吊革には「高岡銅器」をイメージした装飾が施されています。また、砺波市の伝統工芸品の「庄川挽物木地」の茶碗や「越中三助焼」の湯飲みなどが展示され、ギャラリーのような雰囲気を味わうことができます。

たった 1 両に運転手、車掌、寿司職人と販売員、2 名のボランティアガイドの総勢 6 名のクルーが、お寿司や地酒の車内販売や楽しい解説と唄でおもてなし。

車内でいただいた記念乗車証に、スタンプを押したり、車窓からの景色を肴に、思い出話に花が咲きました。

また、沿線の住民の方々も手を振ってくれ、停車駅にはそれぞれ工夫を凝らしたスタッフがお出迎えしてくれます。あっという間に終着駅に着きました。

心温まるひとときが過ぎますよ。



第 27 回呉西地区ボーリング大会

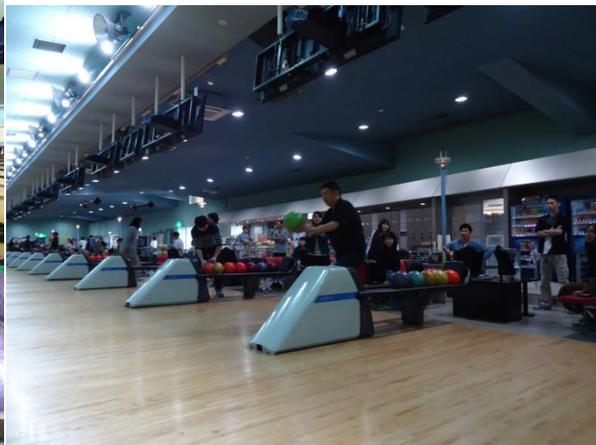
日時：平成 30 年 10 月 21 日（日）AM10：00～

場所：マンボウ高岡店

報告者：真生会 富山病院 中央検査科 田島 和浩

感想

近年の天候不良により呉西地区の釣り大会が実施されない状況でしたので、今回はボーリング大会となりました。参加人数は 15 名で、2 ゲームのトータルのスコアで争いました。久しぶりのボーリングで 1 ゲーム目はなかなかスコアが伸びませんでした。2 ゲーム目はみなさん昔のカンを取り戻したようで、白熱した戦いになりました。僕は今回、初めて参加しました。体を動かしながら、呉西地区の色々な施設の検査技師や、いつもお世話になっている業者とコミュニケーションをとることができ、有意義な時間を過ごすことができました。今年は僕が優勝しました。来年のボーリング大会に向けて、今流行りの両手投げをマスターし、次回も優勝したいです。



事務局からのお知らせ

富臨技求人情報

NO	地域	施設種類	職種	雇用内容	人数	備考
1	呉東地区	検診	臨床検査技師	正職員	1名	パート可
2	呉東地区	検診	臨床検査技師	正職員	数名	パート可
3	呉西地区	クリニック	臨床検査技師	正職員	1～2名	
4	呉東地区	病院	臨床検査技師	非常勤	1名	
5	呉西地区	病院	臨床検査技師	正職員	1名	パート可
6	呉西地区	病院	臨床検査技師	非常勤	2名	

お問合せは

理事 富山市医師会健康管理センター 石川 幸和 (イシカワ ユキカズ) まで 076-422-4122

当会では、施設から提出された求人情報のみ会報並びにホームページ上で公開し、個人の紹介及び検索行為は行いませんのでご了承ください。尚、掲載期間は2ヶ月間とさせていただきます。

入退会について

富臨技への入会および退会には、日臨技とは別の手続きが必要です。富臨技ホームページに入会、退会様式がありますので印刷、記載のうえ、富臨技事務所まで提出をお願い致します。

あ と が き

日に日に肌寒さを感じるようになりました。早いもので今年もあとわずかですね。平成という元号も数ヶ月しかないことも寂しさを感じます。12月1日にはイオンモール高岡にて「検査と健康展」、翌日の2日には富山県精度管理調査報告会が行われます。その他、2020年富山で開催される、日臨技中部圏支部医学検査学会（第59回）の開催に向けた学会テーマを募集することになりました。テーマ募集は学会に向けた第一歩です。施設毎、自薦は問いませんので皆様振るってご応募してください。

会員の皆様の勉強会や研修会等の情報や御報告、そのほか掲載を希望する情報がございましたら、お気軽に富臨技広報部までご投稿お願い致します。宛先は tamt@jasmine.ocn.ne.jp



❖ 平成30年度 会報11月号（通巻329号）発行

会報編集：富山県臨床検査技師会 広報部